

中国における新しい宗教集団の出現 — 気功集団「法輪功」をめぐって

今 防 人

1. はじめに— 気功集団「法輪功」の登場

約2ヵ月後に天安門事件10周年を迎えようとする1999年4月25日、中国北京市の政治的中心部中南海（中国共産党と国務院の所在地）に法輪功の会員約1万人が創始者李洪志批判と天津における会員弾圧に抗議するとともに活動の自由を求めて請願行為と座り込みなどの示威行動を行った¹⁾。

この事件は、中国当局とりわけ中国共産党の支配層に衝撃だったといわれている。なぜならば①警戒が厳重なはずの中南海での座り込みは、連絡が秘密裏に行われて初めて成功するからである。つまり、②江沢民政権を支えるはずの政府・解放軍関係者が法輪功に多く参加していて、しかも彼らがこの計画を公安当局に漏らさなかったと思われるからである。事実、政府側に法輪功側の要求を説明した代表は監察省の官僚だった。これ以降、政府機関は公務員の法輪功への参加を禁止する²⁾。③つまり、政治権力を独占している中国共産党は自己のライバルとなる可能性のある集団は「芽のうちに摘み取る」（江沢民）ことが必要であり、法輪功はこのお墨付きを党から頂いたようである³⁾。

中国共産党の対応は慎重ながらも自己のライバルとなる組織は絶対許されないという

1) 1999年4月26日から4月28日にかけての『朝日』『毎日』『読売』『日経』などの各紙。天津の事件については法輪功側からは初期のメンバーで後に脱会した人々による謀略説が出されている。「法輪功事件の真実と真相」（ホームページ）

2) 『朝日新聞』1999年4月29日

3) 『朝日新聞』1999年5月5日

断固とした態度であった⁴⁾。中国の長い歴史において宗教的結社が民衆の反乱そして政治的社会的崩壊につながることはよく知られている。例えば、1845年から1864年まで続いた太平天国の乱では、2000万人が死亡して反乱軍の拠点の南京を巡る攻防戦では100万人の死者を出したといわれる⁵⁾。中国共産党自身もかつては、秘密の非合法的結社だったので、その指導部はこうした結社が発揮するかもしれない力を十分認識していたと思われる。

中南海事件直後に人民解放軍総政治部は、現役、退役の将兵に対し、法輪功に参加して気功を学ぶことを禁止する通知を出した⁶⁾。また、4月28日付けの中国の主要各紙や中央テレビは中南海事件について、当局の、気功活動を禁止しない方針を示す一方で、大勢が集まった行為は「完全に誤りだ」と指弾。「武術など修行に名を借りて社会の安定に危害を及ぼす者は、法によって処分する」と強い警告を発した⁷⁾。

近代中国の代表的な大衆運動とされる「五四運動」80周年を迎えた5月4日、香港の『経済日報』は、江沢民中国国家主席（中国共産党総書記）が共産党幹部党員向けの見解を報じた。それによると主席は法輪功の組織力、動員力の巧みなさや情報伝達の迅速さを指摘したうえで共産党と対立する存在と位置付けた⁸⁾。

6月に入ると法輪功メンバーに対する各地の地元公安当局の監視や気功活動の妨害が激しくなり幹部が丸一日拘束される事態も起こっている。これに対して法輪功の河北省石家荘市のメンバー約1万4000人が、江沢民主席と朱鎔基首相に連名で抗議文を送った⁹⁾。中国当局は6月14日に再度、法輪功に対する党と政府の見解を発表し、「修煉に名を借りた迷信の宣伝や社会の安定に影響を及ぼす大規模な集会は断じて許さない」と警告した¹⁰⁾。

一方、中央での反法輪功キャンペーンは科学尊重の衣をまといながら登場する。21日付けの『人民日報』は「科学を尊び、迷信を打破しよう」と題した評論を一面に掲げた。この評論は「50年にわたる社会主義建設は、我々の党がマルクス主義の科学的世界観によって全国人民を指導し、不断に迷信を打破してきた過程だ」と強調している。特に評

4) *China Daily* の special reporter Xiaozhen Wang によると、中南海事件の直後、中国共産党中央委員会は中国社会科学学院に法輪功が中国内外で広範な支持を得ているのかを社会的文化的見地から研究するように命じている。Maintain Stability-China Government Targeting at Falun Gong 1999年7月25日ダウンロード

5) Banned sect joins long Chinese history of religious suppression CNN July 22 1999 1999年7月25日ダウンロード

6) 『朝日新聞』99年4月29日

7) 『朝日新聞』99年4月29日

8) 『朝日新聞』99年5月5日

9) 『朝日新聞』99年6月25日

10) 北京14日石井利尚 99年7月25日ダウンロード

論は「愚鈍な迷信活動」が台頭しているとして、「一部の党幹部が私利のため、星占いや風水、相性占いなどを信じ、神仏の祈禱に熱中し、唯心主義のとりこになっている」と指摘している¹¹⁾。

中国共産党・政府内部での法輪功めぐる意見の分裂は外部からは窺い知れない¹²⁾。

7月20日、香港の民主化組織・中国人権民主化運動情報センターは、法輪功の中国各地の幹部約70人が公安当局に逮捕された、と伝えた。中国当局が、全国一斉の取り締まりに初めて踏み切ったことは明らかである。逮捕は20日未明から行われ北京、天津や河北、遼寧、黒竜江、吉林、山西、江西各省で逮捕者が出ている。逮捕は中央の指示による全国統一行動であり、逮捕されたのは各地の活動の中心人物で、自宅から連行される際に、法輪功の教えを書いた書物やメンバーの名簿なども没収された。

これに対して、法輪功は各地で抗議行動に乗り出した。メンバーによる座り込みなどの示威行動は全土に波及し、参加者は合計3万人以上に達した。抗議行動は北京、上海、大連、広州など中国各地に広がった。北京では抗議行動をしようとして公安当局に拘束されたメンバーは2000人を超し、多くがバスで同市郊外に送られ、地方に強制送還されている¹³⁾。香港の同上「センター」によると、法輪功メンバーは北京、上海のほか、天津市や広東、吉林、湖北、黒竜江などの省で30以上の都市で政府機関周辺に集結した。参加者は警察当局が次々と捕らえ、競技場などの施設に移送している。香港のテレビによると広東省の省都広州では5000人以上が市政府庁舎前に集結した。

7月22日中国民政部は法輪功の運営母体・法輪大法研究会（李洪志会長）が「社会団体としての非合法組織と認定し、活動を禁止する措置を取った。同省は「法輪功が未登記で非合法的に活動し、迷信と邪説を広め、社会の安定を破壊している」と指摘、公安省も①集まって気功を修煉し法輪功を広める活動の禁止②法輪功による座り込み、上訴、集会、デモ行進などの禁止—などを通告した。共産党も党員が法輪功を修煉することを禁ずる通知を発表。各組織で共産主義思想に基づく科学的無神論の教育徹底を打ち出した¹⁴⁾。

11) 『朝日新聞』99年6月22日 鄧小平が死ぬまで西洋医学者と気功師をそばにはべらせていたことは有名である、また毛沢東は数百年は経っている高麗人参を地方の農民が捧げたところ喜んで服用していた。

12) 台湾の *Central Daily* は、今回の法輪功弾圧は中央政府の Luo Gan が自分の点数稼ぎのために仕組んだものだと断定している。A plot to persecute Fa lun Gong *Taiwan Central Daily* 1999年7月25日ダウンロード

13) 『日本経済新聞』『読売新聞』99年7月22日 また、CNNによると拘留者の大半は中年の女性であり警官は彼女らの髪の毛をつかんで引きずり警察の車の中にもち込んでいた。Scores detained as Beijing police break up meditation group protest *CNN July 21 Web posted at 7:27AM*

14) 『日本経済新聞』99年7月23日

7月23日中国共産党・政府は、マスコミを総動員して反法輪功・李洪志キャンペーンを一斉に開始した¹⁵⁾。政府の新聞出版署も法輪功関係の出版物、ビデオ、テープ発禁の通達を出し、摘発に乗り出した。中国の中央テレビも23日朝から一般放送を取りやめ、法輪功の修煉者が精神に異常を来たしたり自殺した被害例や、元メンバーの後悔の声などを紹介した。また、創始者の李洪志の個人攻撃も開始した¹⁶⁾。公安省の調べを基に経歴詐称や不正蓄財などがあると誹謗中傷に乗り出している。

こうした中国共産党と政府の全力をあげた攻撃に対して法輪功は、創始者の李洪志が在住地のニューヨークで、今回の政府の措置に対して「非常に遺憾で衝撃を受けている。今後何が起こるか予想がつかない」と政府に対する警告とも受け取れる発言を行った。また十数ヶ国語のホームページを持つ法輪功はインターネット上で政府への抗議を展開している¹⁷⁾。

法輪功問題は米中関係にも波及している。7月22日米務省のルービン報道官は「この団体に対し米政府は（支持あるいは不支持の）立場を取るものではないが、中国が署名した人権に関する国際規約上の義務を遵守し、法輪功の平和的な集会を許可するよう促す」と述べ、対応を批判した。また、同報道官は、集会への参加者は大半が中年の女性で、全く平和的なものだった」と指摘し、「中国政府が集会を禁止するため取った過酷な戦術との情報があり、不快に思う」と語った¹⁸⁾。

中国共産党の機関紙『人民日報』は、法輪功に関する社論を掲載し、この中で法輪功に対する取り締まり強化を「新しい思想政治闘争」と位置付けて党員に闘争勝利を訴えた。社論は「法輪功が人間の思想をむしばみ、公共秩序を乱し、社会の安定を破壊した」などと非難し、法輪功との闘争を国と党の前途と運命にかかわる問題と位置付けた¹⁹⁾。さ

15) 中国共産党機関紙『人民日報』は社論で、法輪功に対する取り締まり強化を「激しい思想政治闘争」と位置付けて党員に闘争勝利を訴えた。同社論は「党・政府と拮抗する政治勢力を形成しようと企てた」とも述べている。『日本経済新聞』99年7月23日（夕）

16) 『日本経済新聞』99年7月24日この記事中で民政省の李宝库次官は「法輪功は邪説」と強調し、合法的な宗教活動や気功活動とは区別して対応する姿勢を示した。次官は非合法認定の理由として①団体登記をせず活動をした。②騒ぎや事件をあおり社会の安定を破壊した③迷信や邪説を宣伝した一などの点を改めて指摘した。23日の新華社に新聞出版署がまとめた法輪功攻撃の長文の論文が載り、この中で法輪功について①終末論を唱え、人類が滅亡すると宣伝した。②現代科学を否定した③どんな政府も社会問題を解決できないと政府無用論を唱えた④法輪功だけが人類を救う唯一の大法だと宣伝した一などと指摘、西側のカルト教団に共通した面があることを強調している。

17) 『毎日新聞』99年7月23日（夕）なお、中国国内で開設されているインターネットのサイトは閉鎖された。『日本経済新聞』99年7月23日（夕）

18) 『読売新聞』99年7月23日（夕）

19) 『日本経済新聞』99年7月23日（夕）

らに中国政府は、始皇帝の焚書坑儒にならい法輪功関連の出版物を全て発禁にした²⁰⁾。

会員の摘発は続き、25日までに中国公安当局はメンバー5000人以上を摘発、また、中国国内のリーダーも特定した²¹⁾。

そして、7月29日には、ついに李洪志を公共秩序かく乱罪容疑で全国に指名手配すると同時に、国際刑事機構（ICPO）を通じて各国に逮捕への協力要請を行った²²⁾。

二. 法輪功とは何か？

法輪功事件の行方は予断を許さない。識者の中には非政治的な法輪功が今回の弾圧により政治的な存在と化したとの指摘もある。過敏ともいえる中国共産党と政府の対応が決定的な「勝利」を収めるか否かは不明である。しかし、このグローバルな情報化社会において権力が取っている手段は蒼古たるもので、これが何ほどの効力を長期的に有するかは誰にも分からない。以下で、なぜ法輪功がこのように急速に会員を獲得したかを知るための前提として教義と修煉の内容を従来の気功と比較して論じようと思う。会員の属性などから社会経済的にアプローチする方法もあるが現況では為す術もないし余り興味ある結論も出ず過渡期にある中国社会の一側面であるとの結論も出かねないからである。法輪功をその教義から出来るだけ内在的に検討しよう。

1. 従来の気功と異なる特徴

① 在家主義—数年前に「香功」(xiang gong) という気功が中国で爆発的に流行したことがある。確か、1990年以降のことである。50年前に田舎で子供が重病になったがそ

20) 「新聞出版局は、法輪功関係の出版物やビデオなどの発禁と回収を命じる通達を出し、違反者は法に基づいて処分すると告げた。『日本経済新聞』同上。さらに中国政府自身も、法輪功に関する書籍、ビデオ、テープなどを全面的に発禁すると発表した。中国政府が団体に関する出版物、録音などを全面的に発禁にするのは最近では異例のことである。『朝日新聞』99年7月29日。29日の中国各紙によると、中国当局は、北京、天津市や吉林、湖北省など法輪功拠点と書店などを一斉搜索し、発禁となった李洪志の著書や宣伝用ビデオテープ、修煉用の衣服など155万点を押収、焼却した。『読売新聞』99年7月30日

21) 『読売新聞』99年7月26日

22) また、公安省の発表によると李洪志は、法輪功を操り、申請や許可を得ずに集会を組織し、デモを行うなど社会秩序かく乱容疑に問われている。さらに、法輪功の会員計743人が死亡したとの捜査結果を公表し、この責任も追及する姿勢を示している。『毎日新聞』99年7月30日。また、米政府当局者は、「米国と中国の間には犯罪人などの引渡しに関する2国間協定は存在しない」と述べて、身柄引渡しに応じることはあり得ないとの立場を明らかにした。『読売新聞』99年7月30日(夕)。ICPOは、中国政府の協力要請を拒否した。ICPOは声明で「ICPOは憲章で、政治的、宗教的性格の行為への介入を禁じられている。李氏の犯罪容疑についての情報が不足している」と拒否の理由を挙げている。『読売新聞』99年8月4日

の家は貧乏で医者にもかかれなかった。その時、通りすがりの坊さんが治してくれ、ある種の気功を教えてくれた。しかし、坊さんは「50年間門外不出に下さい」と言い残して去った。50年後に解禁されたのが香功である。香功は気楽な気功といえる、人と話しながら、テレビを見ながら集中しないで出来るからである。これが香功という理由は、修煉すると身体から良い香りが出てくるからである。もっとも稀に悪臭が出てくることもある。

気功の種類は2000近くもあると言われている²³⁾。すべてを知ることは到底出来ない事だがほとんどの気功は難しいことでは大半の人が一致するだろう。中国の道教関連の古典の話を聞くと数十年の修煉を行ったが大薬が得られず息子に秘法を譲ったなどとの話を聞くと将に面壁9年の喩を想起せずにはいられない。気功の修行は武術の修行に劣らず厳しい。こうした修行方法については人口に膾炙している。例えば、零下何十度という寒中に衣のうえから水を浴び凍りついたのを意念の力で乾かすというなどは初歩的なものらしい。

香功は難行苦行を伴わないので瞬く間に流行したがそれと同じ速度で廃れていったようである。もちろん、香功は健康維持を目的としたのであるが思ったように効果が得られなかったのであろう。あるいは、香功はそれだけでなくスワイショウのようにいわば準備の動功²⁴⁾であるのかもしれない。

いずれにせよ気功が禅と同じように否それよりももっと困難な修行を通じ悟りを開くのである。従って最後には良い気脈がある山で修行するのが一番とされる。もちろん、こうは言っても悟りを開いた人が山の中にしかないというわけではない。陶淵明の言うように人間の車馬の喧しき中じんかん かまびすにいることもあるだろう。しかし、いったんは山で修行することが肝要である。

ところが法輪功は世俗の中でこそ修行がはかどると言うのである。

法輪功のスローガンは真、善、忍の3つである。李洪志によると「この宇宙の最も根本的な特性は真・善・忍で、これこそが佛法の最高の体現であり、最も根本的な佛法です²⁵⁾。」「真」は道家が主に修煉するもので彼らは「真を修め、心性を養う」こと重んじ、真実のことを話し、嘘偽りのないことをし、正直な人間になって返本帰真し、最後には

23) 李遠国/大平桂一・大平久代訳『道教と気功』人文書院、1995年

24) 気功は動功 (dong gong) と静功 (jing gong) に大別される。動功は身体の中を気が動きやすくするための運動であるがあるレベルまで行くと必要なくなる。静功は禅の瞑想に似ているが意念やイメージを積極的に利用し身体特に脳を変える。香功は、約3000万人の会員を擁し、中国政府の監視下にあるとの報道もある。『読売新聞』『日本経済新聞』1999年8月15日

25) 『轉法輪』「第一講」『轉法輪』はナカニシヤ出版から翻訳あり、法輪功のホームページからダウンロード可能。

26) 同上

修煉が成就し「真人」になることを目指します。」「佛家は主として慈悲心を生ずる善を修煉する²⁶⁾。しかしながら、法輪功の核心は「忍」にある。

ここで李洪志は善悪に関する一種の唯物論を展開する。「徳は一種の白い物質で、今まで思われていたように人間の精神的なものとか、イデオロギー的なものではなく、それは、まったく物質的な存在です。(中略)この徳が身体の外に1つの場を作っています。(中略)ところが、徳と同時に存在するのはが業力で、これは一種の黒い物質です。佛教ではこれを「悪業」と呼んでいます。」「大事な点は徳という物質は、われわれが苦しみに耐えたり、打撃を受けたり、良いことをしたりして得るものです²⁷⁾。」これに反して「業力という黒い物質は悪事を働いたり、良くないことをしたり、人をいじめたりして得るものです。(中略)人を罵ったり、いじめたりするとすると、その人は自分の徳を相手に投げ与えることとなります。一方、相手はいじめられ、苦しめられ、失った側なのでそれをもらえるのです。」

つまり、法輪功の在家主義の1つの核心が「忍」にあることが分かる。なぜならば、山の中では人界にあるようにいやなこと、いじめ、人間関係の葛藤に会うことはないからである。それどころか人界にあってこそ修煉がはかどるのである。つまり、蓮の上では修煉が出来ないというのである。

このことは法輪功の今後を占う点で重要である。宗教に良くあることだが迫害を受ければ受けるほどそれ自己の信仰の証となる。李洪志の教えによると弾圧されればされるほど会員は「白い物質」すなわち徳を多く受け取るからである。彼の教理からすると中国政府の弾圧は権力と法輪功の乖離をますます広げ後者は一層徳を受けることになる。

法輪功の在家主義は、利益という点で脱俗主義を標榜することはない。通常、道仏を問わず悟りが世俗的な欲望を捨てることを1つの原理とすることが多い。しかし、李洪志は問題は「執着しないことである」と繰り返し説く。不正をせず正直に働き利益を得る場合、それを拒む必要はない。問題はどんなに富を得てもそれに執着しない心が大事なのである。この点に我々は注目する必要がある。つまり、いわば「社会主義市場経済」をある意味で肯定しているのである。正直に一生懸命努力し果実を得るならばそれを否定する必要はない。問題は「執着しないことである」。しかし、具体的な生活レベルと考える場合北京の暑苦しい夏の夜を多くの大衆のように戸外で涼を取るかクーラーを据え付けるかは大分異なると思われる。執着しないことの保証、執着しないことの装置は必ずしも明らかではない。この点に関しては法輪功は中国の「開放・改革路線」と矛盾しない。日本のマスコミ指摘しているようにある意味でバスに乗り遅れつつある民衆の心理の一面を代弁しているのかもしれない。

② 他力主義—李洪志の著『轉法輪』を一読して受ける印象の一つは教祖と信者の関

27) 以下の引用も『轉法輪』から

係が存在し、李洪志もまたそれを要求している点である。本書の随所にそれが現われている。この本に書き込みをするなどは師（李洪志）に対する侮辱以外の何ものでもない。と彼は強い口調で断言する。

通常、気功はある人あるいはある存在への帰依しかも絶対的帰依を要求することはない。

気功の狙いについては古来さまざまな解釈がある。その一つの解釈に過ぎないが、気功の究極の目標は自由になることである。但し、自由といっても西欧的な意味での *liberty* や *freedom* とは異なり、基本的に身体からの自由を基礎とする。哲学者といえども歯痛には堪えられない、と言われてきたが、問題は歯痛なのである。歯痛からの自由なのである。身体は牢獄である。しかし、人間は身体を基礎にて修煉を行うことが出来る²⁸⁾。究極の修煉を積むことにより人は身体を乗り越える事を目指す。身体を出発点としながら身体を乗り越える²⁹⁾。

気功は禅と同様に悟り³⁰⁾を開くという大欲を唯一の欲として修煉に励む。修煉のさまざまなルールは自由に到達するための手段である。およそある人間（たとえその人が師であったとしても）への帰依は含まれない。帰依の対象は宇宙の原理もしくはその原理を具現した象徴としての対象でしかない。

李洪志が会員に絶対的な帰依を求める根拠は何か？ひとつには真の気功は彼以外に未だ明らかにしたものはいないからである³¹⁾。彼が会員に帰依を求めるより根本的な理由は、彼が言うところの法輪を会員の下丹田³²⁾の個所に植え付ける能力にある。

28) 動物は基本的に修煉を禁じられている。もし、何かの拍子に修煉を始めた動物を天は許さない。天の火によって焼き滅ばされてしまう。『轉法輪』

29) 1970年代に流行した現象学などを基礎とした身体論は身体をどう見るかどう認識するかに関心があり身体をどう変革するか超越するかはせいぜいキリスト教のアナロジーをもってよりしかたなかった。こうした認識中心の身体論が一時のディレクタントの関心を失うのも早かった。

30) 社会学者の中でも唯一といってよいくらい禅に深い関心を示し自らも実践している青井和夫の禅理解も基本的には認識にアクセントを置いたように見受けられる。もちろん、彼自身は時折透視のようなことを言うのも事実である。ともすると悟りが認識中心と受け取られることが多い。注意しなければならない点は、この際、認識といっても認識の原点である知覚の変容あるいは拡大が問題になることに目を向けることが大事だ。気功では「目に見えないことが見え耳に聞こえないことが聞こえる」とよく言う。いわばこうした超常世界を見たり、聞いたりすることが目的ではない。それは悟りにいたる過程の副産物である。身体の変化が重要なポイントである。心あるいは魂をも含む身体の変化が目標とされるべきである。

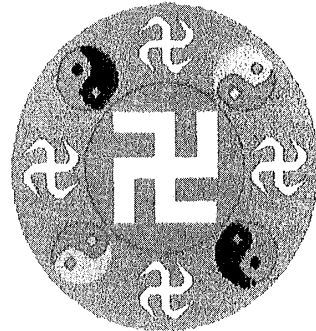
31) 彼は『轉法輪』の随所でこれまでの気功師を厳しく批判している。李洪志によると彼らは求めるのは金と名誉でしかない。また、能力からいっても極めて劣り、病気を治すと言って実は憑き物の力を借りて治したり甚だしきは自分に病気を引き受けて治したりすることさえある、という。これも全て金と名誉のためである。

32) 下丹田。通常、不老不死を目指す修煉者にとり身体変革のポイントは丹田といわれる。頭、胸、腹のおおのにおの上、中、下の3つの丹田があるとされる。しかし、この3つの丹田は同等ではなく下丹田が変革の拠点とされている。通常、丹田を開くという場合、下丹田を指す。開くことによりここから陽気が雲のように出て身体内部の障害を溶かす。これにより気功でいう任脈と督脈が通じて小周天を行う準備が出来る。今日の気功では小周天を単に両脈に沿って気を巡らすことをいう場合があるが正しくない。

法輪は通常の意味では「仏の教法で、仏の教えが衆生の悪を破るのは、転輪聖王の輪法という宝器が岩石を砕くようであるというたとえから³³⁾」使われるが、李洪志の定義によると「霊性を持つ回転している高エネルギー物質である。法輪は全宇宙の運動法則により回転しているのであり、ある意味から言えば、宇宙の縮図である。法輪の中心は仏家の卍の符号であり（梵字では svastika）とし、意味は吉祥（めでたい兆し、前兆）万徳である。卍は法輪の核心であり、色は黄金色に近く地の色は鮮やかな赤色である。外側の地の色はオレンジ色であり、四方の太極と四方の卍が交互に並び、8つの方位上に位置している。赤と黒からなる太極は道家のものであり、赤と青からなる太極は先天大道のものである。四方の小法輪も黄金色であり、法輪の地の色は変化する。赤橙黄緑青藍紫のように周期的に変化し、色は非常に美しい。これらの大小法輪と卍の符号は皆自転している。法輪の根は宇宙に根ざしており宇宙が回っているので法輪も回っている。この法輪は修煉のレベルの違いにより見え方が異なる。高次の方は法輪の全景が見えるが低次の方は扇風機が回っているように見える³⁴⁾」

法輪大法を受け入れ修煉に入ろうと決意する人は全て李洪志の弟子となる。彼は弟子に対して責任を持ち下腹部（下丹田）に法輪を植え込む。この法輪は極めて重要である。なぜならば、通常の気功においてはかなり長い準備期間の後に初めて本格的修煉に入るのに対して法輪功のメンバーは法輪を植え込まれたためにいきなり高次のレベルから修煉に入れるのである。

法輪は実に便利なものである。普通、気功の修煉の場合は築基³⁵⁾といい、周到な準備過程を踏まなければならない。しかしながら、法輪功では法輪を植え付けることにより、この過程を一挙に飛び越えて最初から高い次元で修煉に入れるのである。法輪は修煉者が意識してなくても自動的に回転し修煉して



33) 藤堂明保編『学研漢和大字典』学習研究社 昭和54年

34) 『轉法輪』参照。

35) 「一般的に言って、内丹の修煉の過程は築基・煉精化気・煉精化神・煉神還虚の四段階に分かれている。築基は基礎を築く功法であって、欠けた要素を補うことに重点が置かれ、精・気・神の3要素が完全な状態になるのを目指す。基礎が固まってこそ、煉精化気の修行に入ることが出来る。擬陽子著『至道心伝』は、「築基の功法は、雑念を排除して心を集中して、精を堅固にし、気を伸び伸びさせることに尽きる。体の中の精・気・神が充実し、骨・髓が強固となった状態を国家にたとえて民安国富と称するが、そうってからやっと本格的な修行に手を着け、煉丹の道を歩み始めるのである」李遠国『道教と気功』参照。

くれる³⁶⁾。これは従来の気功の修煉とは全く異なるといってよいだろう。李洪志の言葉によると「高い次元で修煉する時は、すべて無為で、動作も気機に導かれるままに動き、意念による導引は一切なく呼吸法なども問題にしません³⁷⁾。」

通常、気功の修行では意念はかなり大事な役割を果たす。座禅では（例えば道元禅では）只管打坐と言ひ文字通り「只座ること」が大事なのである。大悟を目指して修行するものの一度座れば地獄に入ろうが極楽に入ろうが一切関係ない。只ひたすら座るのである。さらに座ることもどうでも良くなるのである。これに対して気功は意念を用いる。意念を用いることで上達の速度が速くなるのである³⁸⁾。李洪志は一貫して意念の利用を否定する。これは中国仏教が明の時代に入り座禅と念仏に特化して行った伝統と関係しているかもしれない。

法輪による修行は前述の李洪志への帰依と関連している。なぜならば、彼が説く戒律に背けば会員はすぐに法輪を取り上げられるからである。このように便利な法輪を手放すわけには行かない。会員の彼への帰依はますます強まることになる。

③ 病気治し—法輪功の急速な拡大の理由として病気の治療を挙げる人は多い。しかし、彼の名著『轉法輪』を一読すれば分かる通り、彼は法輪功が病気治療を目的とするのではないことを繰り返し強調する。弟子たちにも病気治療を行うことを厳に戒めている。李洪志は治療禁止を現代の偽気功師の横行と関連付ける。これらの偽気功師は前述のようにもっぱら金と名誉のために行っている。こうした執着心は高次の修煉にとり百害あって一利なしである。もし彼の弟子が治療を行えば即刻破門となる。

しかし、法輪功が病気治療と全く無縁かと言うと一概にそうだとは言えない。まず彼は大悟を目指す学習者が法輪功に専一しようと一念発起する時李洪志は弟子として受け

36) 「法輪は、常人が普通の生活状態を保ったまま煉功する問題を解決、煉功の時間を増やしてくれました。(中略)法輪が止まることなく回転し、絶えず宇宙からエネルギーを吸収し、エネルギーを演化しているからです。出勤している間でも、法輪はあなたを煉っています。当然、法輪だけではなく、ほかにもあなたの身体に数多くの機能、機制を植えてあげますが、それらは、すべて法輪と連動して自動的に回転し、自動的に演化しています。したがって、この功は完全に人の身体を自動的に演化しますので、「功が人を煉る」あるいは「法が人を煉る」ということになります。」

37) 『轉法輪』参照。修煉の時間も問題にならない。気功では修行の時間は厳密に定まっている。五臓六腑の各々にしても活発になる時間が決まっていて、それに合わせて訓練する必要がある。これは一日24時間だけではなく1年について、春夏秋冬についても言えることである。

38) 道教の一切経にあたる『道蔵』にはこうした例が無数にある。もちろん、佛教の修行法にもこの意念を用いる修行法はある。例えば、上丹田を開く訓練としては頭を蓮の蕾から開花するようにする。こうした意念やイメージを利用する修行法は無数にある。禅とくに道元禅では只管打坐を重視するが佛教自体とりわけ中国仏教では道教の影響を受けてこうした修行法が珍しくない。

入れる。受け入れるに当たって彼は弟子たちの身体を浄化する³⁹⁾。浄化しなければ法輪を植え込むことは出来ないからである。ここで弟子は高次の修煉を誓い法輪功のルールを守り修煉に励むならば李洪志は彼の身体を浄化してくれるのである。

さらに弟子が病気治療を許される場合がある。「修煉途中の修煉者が慈悲心から、良いことをし、人の病気を治してあげるのは許されることです⁴⁰⁾。」

1950年代に道教の内丹術、武術、中医学などさまざまな要素を取り入れて現在のような形の気功が成立して以降、気功は中国共産党・政府のイデオロギーに反しない形で普及を許されてきた。健康の維持、病気の予防・治療である。学習能力の向上などの「精神面での健康」も許容されていた。しかし、道家気功のように、(形を有するものとして陰である)身体を限りなく陽化して全身が純陽となり白日昇天し、仙界に赴くなどは唯物論に相反することは言うまでもない。従って、李洪志に言わせれば現在の気功師の退廃振りは党・政府の気功対策に根があるとしか言いようがない。実は、気功はその一つの土台である道教の内丹術にせよ一つのシステムであり一部分だけ切り取るわけにはいかないのである。

現代中国の著名な気功師にしても党・政府のお墨付きを得るために「科学」との調和を図るために腐心しているが⁴¹⁾、微縫策でしかない。

宗教の重要な役割の一つが病気治療にあることはよく知られている。これは何も文化人類学や民族学の研究書を参照しなくても分かる。卑近な例として立正佼成会を挙げよう。1940年代初頭に霊友会から独立した立正佼成会は戦時下・戦争直後に爆発的に教勢を伸ばした。拡大の原動力は病気治しであった。当時国民病といわれた結核はまだ抗生物質もない時代で対症療法が中心であり、先祖供養など信心は大きな効力を発揮した。保険の普及も遅れていた時代で貧乏人は高価な医師にかかることは無理だった。主任クラスを中心に行われた熱心なご供養で救われた人々も確かに多かった。

現代中国では改革・開放路線の伸長とともに貧富の格差が拡大しつつあるとの認識が

39) 「わたしはここで病気治療の話をしません、病気治療などもしません。しかし、本当に修煉しようとする人の身体に、病気があっては修煉できるわけがありません。ですからわたしは身体を浄化してあげなければなりません。しかし、身体を浄化してあげるのは本当に法輪功を学びにきた人、本当に大法を学びにきた人だけに限ります。」『轉法輪』参照。

40) 『轉法輪』参照。「しかし、」と李洪志は続ける。「完全に治すことはできません。もし、本当に常人の病気を根治してあげることができるとして、修煉しない常人がこの会場から出て、何の病気もなくなったとしましょう。でも、その人が相変わらず常人のまま、私利私欲のために人と争ったりするようでしたら、このような人の業をどうして勝手に滅してあげられるのですか？そのようなことは絶対に許されません。」

41) 李洪志にしても「気功師の身体から低音波、超音波、電磁波、赤外線、紫外線、ガンマ線、中性子、原子、微量金属元素などが」測定機器を使って測定できたとしている。『轉法輪』参照。また、著名な気功師嚴新も気功の科学化を図っている。

一般的である。医療費がタダとなれば低所得層にとり大きな助けとなるであろう⁴²⁾。まして法輪功は少なくとも会費を出来るだけ実費に抑えている。むしろ、高額にすれば破門となる。7月23日の非合法化以来、中国政府は法輪功・李洪志の批判を強めている。その中で李洪志が高額な収入を得て、脱税までしていると批判している⁴³⁾。

④ 終末論—『轉法輪』を一読して分かることはその歴史観は伝統的な気功とは異なることである。法輪功を取締まる理由として中国・民政省が終末論を挙げているのは正鵠を射ている⁴⁴⁾。まず李洪志は、この世界が実は何回も滅亡を繰り返していることを強調する。それは墮落によるものである。仏教で言う末法は将に現代なのである⁴⁵⁾。末法論の例にたがわず李洪志は現状を厳しく批判する。現代社会は、金万能の社会であり（特に、中国社会はと彼は言いたいのだろう）利己主義の社会である。

ここで法輪功は宗教的な色彩を色濃く帯びて来る。「心性」の重視である。本当の修煉は自己の心を修煉しなければならない。それは「心性を修める」と言うことである。この戒律の核心は私利・私欲を捨てること、七情六欲など様々な欲望を抑えなければなら

42) かつては保険制度がそれなりに完備していた中国では改革・開放路線の進展により国家も企業も医療保険への支出金がままならない状態に陥っているようである。当然、自己負担金も増大している。まして、失業者にとって医療費は大きな負担となっていることが想像に難くない。「国家体育総局：法輪功の病気治療・健康保持の有効率は97%にも及ぶ」と題する法輪功のホームページは、今年5月以来、國務院の指示により国家体育総局が調査したところ「全国1万2553人の被験者のうち、男性27.9%、女性72.1%、50代以下の人48.4%、50代以上の人51.6%。中には1種類以上の病気を抱える学習者が1万475人で、全被験者の83.4%を占めている。2-3ヶ月ないし2-3年の修煉を経て、病気のある学習者の健康状況がかなり改善され、病気治療に顕著な効果が現われた。全治とほぼ全治を含む回復率は77.5%で、20.4%の改善率を加えると、病気治療健康保持の有効率は97.9%に上った」とし、同時に、7110名の学習者が節約した医療代は年間総額合わせて1265万円で、1人当たり、1700円を節約した。

43) 新華社電は李洪志の「その人と行い」と題する公安省研究室の報告書を発表し、李氏が脱俗して「最高の仏」になっている、というのは事実と違い、「短期間に大金持ちになった」としている。書籍やビデオ、バッジなどを売って得たカネで、李氏や家族の名義で北京や長春に数軒の豪邸と多くの乗用車を持ち、多額の脱税をしている、としている。『朝日新聞』99年7月23日 法輪功自身の言うように会員数7000万人（中国本土）は多いとしても政府が言うように200万人は少ない、香港の人権関係団体は2000万人を推定している。『毎日新聞』99年7月28日参照。こうした誹謗中傷合戦はしばらく続くだろうが真相は藪の中だろう。

44) 注16を参照。

45) 「釈迦牟尼の法は、2500年前に、次元の極めて低い常人、つまり原始社会から脱皮したばかりの、考え方も比較的単一人々に説いた法であるに過ぎません。釈迦牟尼の言う末法時期は、今日のこと、今の人はその法に基づいてはすでに修煉できなくなっています。末法時期には、寺の僧侶が自己を済度することさえもできないのに、ましてや他人を済度することなどなおさらです。（中略）言うまでもなく、今日の人類社会の道徳基準にはすでに変化が起こり、道徳基準までが歪んでしまっています。今、誰かが「雷鋒」を手本にしていれば、頭がおかしいと言われるかもしれません。しかし、5、60年代には、頭がおかしいとあざ笑う人いたでしょうか？人類の道徳基準は甚だしく低下しており、世の中の風紀は日増しに乱れ、人々は利益に目がくらみ、ちょっとした利益のために人を傷つけたり、奪い合ったりして、手段を選ばずやっています。』『轉法輪』

ない。心性の修煉こそ功を伸ばし、次元を高める方法なのである⁴⁶⁾。我々がすでに宗教の多くのセクトで見えてきたように迫害を受け、それに抗うのではなく耐えることあるいは迫害を受けること自体が救済の証であると言う論理を垣間見ることが出来る。

こうした論理に対して権力はどのような手段を有しているだろうか？

現在、中国政府・共産党は李洪志の個人攻撃を一つの有効な手段を考えているようだ。すでに見たようにマスコミは李洪志が蓄財しているとか高級乗用車、豪邸を持っているとか、脱税をしているなどと攻撃している。これに対しては法輪功側から細かい反論がなされている⁴⁷⁾。しかし、ここではっきりしていることは権力側が改革・開放路線に沿った世俗的価値すなわち金銭欲を基礎にしている点である。価値そのものはもはや否定しがたい。それならば価値を得る手段が良くないのである。改革・開放路線により生じたおびただしい失業者の群れ、経済格差のますますの開き、汚職・数々の不正蓄財は、バスに乗り遅れた人民大衆の中につつまれる怨嗟・ルサンチマンの情を生み出さずには置かない。江沢民は訪中した小淵恵三首相に「人民がなぜ法輪功に熱心になるか分からない」と述べたそうだ。

白猫黒猫路線の鄧小平いらい人民大衆に3度の飯が食えるようにしてやった共産党指導部にとり、真、善、忍などを唱える法輪功は不可思議な存在なのであろう。社会主義市場経済路線をとる中国にとり、現状は過渡的段階なのだ。これを過ぎれば「見えざる手」により全ての民衆が豊かな生活を送れるのだ。

こうした指導部にとって、法輪功は生活より別の価値を重視する文化大革命の観念論者と同様に危険な存在なのかもしれない。一種の永久革命を標榜して大混乱を生んだ毛

46) 今回の政府による弾圧に対してもこの心性の修煉は実践されているようである。「ハルビンの法輪功修煉者の呼びかけ」という1文にはこうある。(「法輪大法」ホームページ1999年7月24日)「今日は、24日です。この4、5日間の間、我々修煉者は今までのいずれの試練よりも厳しい試練に直面しています。これは常人にはとても負担できないものです。しかし、円満成就に向かって邁進しているわれわれ大法の真の修煉者にとって、これは常人と決裂するまたのチャンスであり、常人の名誉、利益、情を徹底的に放棄するチャンスでもあります。また、現在の情勢は私たちに徳を積ませ、逆境の中に精進させていると同時に、これは先生が私たちが法の中に昇華させ、われわれの心性を検証する絶好のチャンスでもあります。」弾圧のさなかでも心性の修行はなされた。「初めて警察がここまで民衆を殴ったのを見た」(1999年7月20日ホームページ)では、大連では、7月20日午後、100名近くの修煉者が殴られた、「私たちは李先生が要求した通り、殴られても罵られてもやり返さなかった。」また、「大連市法輪功修煉者が事情説明に行った時の実況」(ホームページ)にはこうある。大法修煉者の身柄拘禁のことについて、市政府に事情を陳述するため、1000名余りの大法修煉者は大連市人民政府信訪事務所に来た。逮捕された大法修煉者が「集団で事件を起こし、公序を違反した」という逮捕の理由について理解しがたいからである。修煉者は散々に殴られた。しかし、「ある女性修煉者が引っぱられ、腕が負傷したにもかかわらず、痛さに耐えながら、警察官が落としたポケットベルを拾い上げて渡した。」

47) 「法輪功事件の真実と真相」(1999年7月7日ホームページ)には、<法輪功の伝出・発展から今日までの重大事件を経験したベテラン煉功者>の証言として、金銭面での攻撃が以下にでたらめかを詳細に検証している。

沢東と4人組の悪夢を法輪功に見ているのかもしれない。権力にとっては腐敗官僚の方がまだましであろう。原資には限りがあるからだ。

末法論を唱える法輪功は現状の否定と言う基礎に立つがゆえに社会の敵となる。法輪功・李洪志がいくら政治に関与しないと言っても権力は矛を収めないだろう。だが、中国共産党は少なくとも表の論理としてはイデオロギーの祭司でなければならない。この祭司が手にする唯物論や科学的社会主義はもはや無花果の葉の役割も果たさないであろう。

II 法輪功は至高の気功か？—中間的結論

① 気功としての問題点。以上見たように法輪功の最大の特徴とりわけ修煉上の特徴は李洪志が会員の下丹田に植え込むと言われる法輪にある。1億人の会員に李洪志は本当に植え込むことが出来るのか？残念ながら会員になり修煉して見るより確かめる方法はなさそうだ。

しかし、ある気功師によると、卍は佛家のものであり、太極は道家のものである両者はレベルが異なる。太極は、「天地万物の根源」であり、『老子道德経』の「道は一を生じ、一は二を生じ」とあるように天地の生成論を表している。これに対して卍は記述のように吉祥、瑞相を表している。

李洪志の能力、法輪功が短期間に驚くほどの会員を集めることが出来たのは上記の外在的な理由を挙げられるが問題は李洪志の気功師としての能力である。7月の一斉摘発の際にも興味深いエピソードが伝わっている。7月21日北京市では1万人余りが北京市信訪総局に状況陳情に行った。午後2時30分から3時、4時まで、上空に連続して大きな法輪が現われ、警察と煉功者は皆目撃した⁴⁸⁾。ほぼ同じ時間に、空中に法輪と先生の法身が現われ、太陽が巨大な法輪となった⁴⁹⁾。

李洪志にかなりの能力がある事は間違いない。しかし、果たしてその能力が伝統的な気功の世界の天仙、神仙⁵⁰⁾に匹敵するかどうかは即断できない。

彼の修煉により身体が細胞以下のレベルから高エネルギー物質に変化するという考えは道家気功の白日昇天の考えに近い。すなわち、形のある物は全て陰であり、魂は陽で

48) 「中国大陸からの最新情報」(ホームページから)

49) 「中国大陸からの最新情報」(北京時間7月22日00:13現在)

50) 仙人にもランキングがあり、下から鬼仙、人仙、地仙、神仙、天仙の順である。鬼仙は輪廻から逃れられないが自分で転生先を選ぶことが出来る。人仙、地仙は輪廻から自由になれるが地上を離れられない。これに対して神仙は地上から離れる、つまり李洪志の言う異なる次元、高い次元に入ることが出来る。天仙は仏教で言う毘盧遮那仏(大日如来)すなわち宇宙的存在としての仏陀にあたる。

ある。修行の結果、身体は純陽になり、あたかも水蒸気のように白日に昇天する⁵¹⁾。世界は物理的な世界とは異なり幾層にも分かれている。現代の物理学では未だ証明できないが将来には、存在が明らかになるだろう。

②法輪功は中国共産党が正しく指摘したように現在の中国では共産党の唯一の敵かもしれない。それは政治勢力というよりはオルターナティブな価値の可能性を有する勢力として気功・宗教の衣をかぶりながら人民大衆に浸透していく勢力である。その在家主義は天安門事件のように一握りの知識分子ではなくまさしく人民大衆の海の中から沸いてきた観がある。

あれほどの犯罪を犯したオウム真理教が一時の激減から勢力を徐々に回復し始めていることが日本では問題になっている。ある世界を垣間見た人々はもう素直に元の世界に帰ることはないだろう。日本の法輪功愛好者が述べているように「私達一人一人が自身で起きた疑う余地のない変化から、法輪功は真実で有効であるとはっきり分かっています⁵²⁾。」中国東晋時代の気功の理論的先駆者と称される葛洪が気功に対する人々の反応を分類しているのを見れば今も昔も信薄きものは常にいるということだろう⁵³⁾。

51) 南インドの生き神サイババの奇跡もこれに近いものであろう。彼は、空中からつばやプレスレットを取り出す。

52) 「中国の法輪功の愛好者たちを助けてください！！」(ホームページ)

53) 葛洪『抱朴子』平凡社